

南信で探る日本列島の形成

日本列島はどのようにして形成されたか？ これは日本地質学の第一級の問題ですが、これを理解する重要なヒントが南信の地層に記録されていることがわかってきました。最新の研究成果をわかりやすく紹介します。

講師： 星 博幸氏（愛知教育大学准教授）

日時： 7月22日（日） 午後1時30分～3時

場所： 飯田市美術博物館 講堂 ※聴講無料、申込不要



▲阿南町の岩石とそれを調べる学生。

阿南町や新野峠付近にみられる中新世の地層が日本列島形成の理解に重要であることがわかってきました。

【講師紹介】

星 博幸（ほし・ひろゆき）氏

主な研究分野は地質学と古地磁気学（岩石磁気学）。地層や岩石の野外観察や磁気測定によって、過去に生じたさまざまな時間空間スケールの大地の変動を研究する。

学生とともにハンマーやツルハシを持って地層を掘ったり削ったりしながら国際的な研究成果を発表する傍ら、教育活動、小中高生や市民講座への出張でも活躍している。

 iida city museum
飯田市美術博物館

〒395-0034 長野県飯田市追手町 2-655-7
TEL 0265-22-8118 FAX 0265-22-5252 <http://www.iida-museum.org/>

◆次回の自然講座は8月26日（日）、坂本正夫（本館客員研究員）の「遠山地震 300周年目の伊那谷で、東海地震の被害も見つめて」です。